

早期診断・早期治療が大切です。

認知症は診断されたとしても、早期治療で進行を遅らせることや症状を緩和することが期待できます。また、介護サービスを利用することでご家族の負担が軽くなったり、接し方や生活環境を工夫することでご本人が穏やかに過ごせることにもつながっていきます。

<認知症について相談できる医療機関はこちらです>

- ・ 市立稚内病院精神神経科
稚内市中央4丁目11番6号
☎ 0162-23-2771
- ・ 稚内禎心会病院脳神経外科
(脳疾患が原因による場合)
稚内市栄1丁目24番1号
☎ 0162-29-4311



※かかりつけ医をお持ちの方は、主治医にご相談の上、受診して下さい。

認知症の方への接し方

①基本の3原則

急がせない

驚かせない

自尊心を傷付けない

②具体的な対応について

- ・まずは見守りましょう。
- ・余裕を持って対応しましょう。
- ・声をかける時は1人で話しましょう。
- ・後ろから声をかけないようにしましょう。
- ・相手に目線を合わせて、やさしい口調で話しましょう。
- ・おだやかに、はっきりした話し方で話しましょう。
- ・相手の言葉に耳を傾けて、ゆっくり対応しましょう。



認知症サポーターになりませんか？

認知症サポーターとは認知症サポーター養成講座を受講し、認知症について正しい知識や対応の仕方を学び、自分の出来る範囲で認知症の方を見守る応援者です。養成講座終了者にはその証として、オレンジリングが手渡されます。

認知症サポーター養成講座は町内会や金融機関など、5名以上の地域の各種団体に対し開催しています。認知症キャラバンメイトである稚内市長寿あんしん課の職員等が出向いて講座を行いますので、希望される場合は長寿あんしん課包括支援グループまでご連絡ください。

▲認知症サポーターの証「オレンジリング」

3. 認知症について

認知症は単なる物忘れではありません。

認知症とは脳に起きた何らかの障害によって、いったん身についた知的機能が低下する**病気**です。



① 認知症の種類

アルツハイマー型認知症

βアミロイドやタウというタンパク質が脳にたまり、神経細胞が壊れると発症します。

比較的早い段階から記憶障害や日にち、場所の感覚が失われ、不安、うつ、妄想などが出やすくなります。

レビー小体型認知症

パーキンソン病に似た歩行障害や、実際にはない物が見える幻視が主な症状で、症状の変動が大きいのが特徴です。

ぜんとうそくとうがた 前頭側頭型認知症 (ピック病など)

我慢したり思いやりなどの社会性を失ってしまうため、周りからは人格や性格が変わってしまったように写ります。

比較的、記憶は保たれている場合が多いです。

脳血管性認知症

脳梗塞、脳出血、脳動脈硬化などのために、神経の細胞に栄養や酸素が行き渡らなくなり、その部分の神経細胞が壊れることで発症します。

意欲が低下したり、複雑な作業ができなくなったりします。

その他

まんせいこうまくかけっしゅ
脳腫瘍や慢性硬膜下血腫、甲状腺の病気、栄養失調などでも認知症の症状が現れます。

これらは原因を治療することで改善することが期待できます。

②認知症の症状

ちゅうかく

中核症状…脳の細胞が壊れることによって直接起こる症状を「中核症状」と呼びます。記憶障害や場所・時間などの感覚の低下、理解・判断能力の低下や計画を立てて行動することができなくなります。

行動・心理症状…本人の性格、環境、人間関係などの要因がからみ合っ
て、精神症状や日常生活における行動上の問題が起きてくる症状で
す。最近ではBPSDとも呼ばれています。

その他身体的症状…認知症にはその原因によって、さまざまな身体的な症状もでてきます。血管性認知症の一部では、早い時期から麻痺などの身体症状を合併することもあります。アルツハイマー型認知症でも、歩行がたつたなくなり、終末期まで進行すれば寝たきりになってしまうことも少なくありません。

